

# 周防灘海域における 漁業者の視点から見た環境変化

大分県漁業協同組合

豊後高田支店

岩本 義彦

# はじめに

- 昭和51年大学卒業後、家業の漁業に従事。
- 当時は小型定置網とノリ養殖を営む。(小型定置網は平成4年に、ノリ養殖は平成20年に廃業)
- その後アカガイ養殖(平成3年～平成22年)やカキ養殖(平成9年～)などの二枚貝養殖を始める。

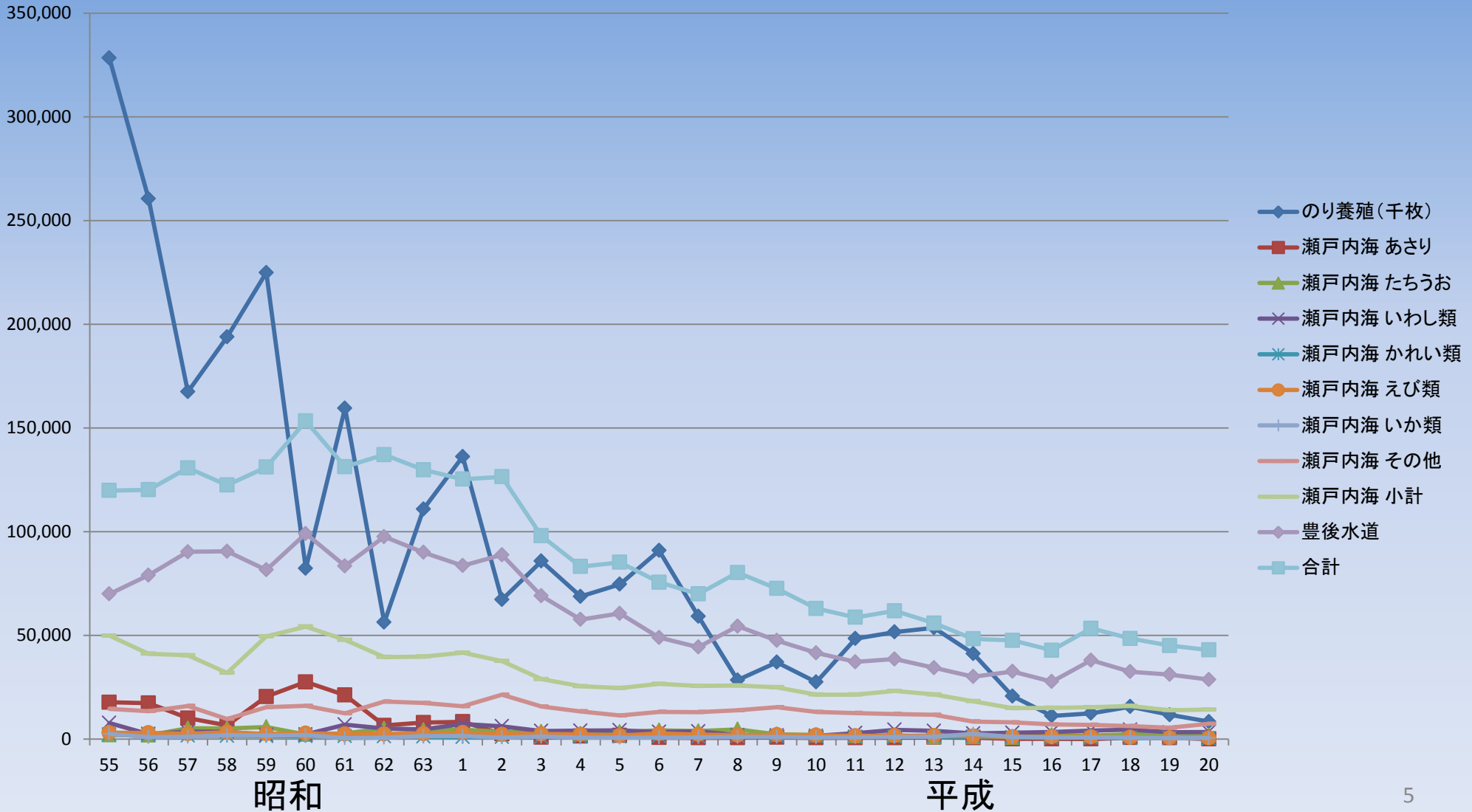
# 第1章 大分県の水産



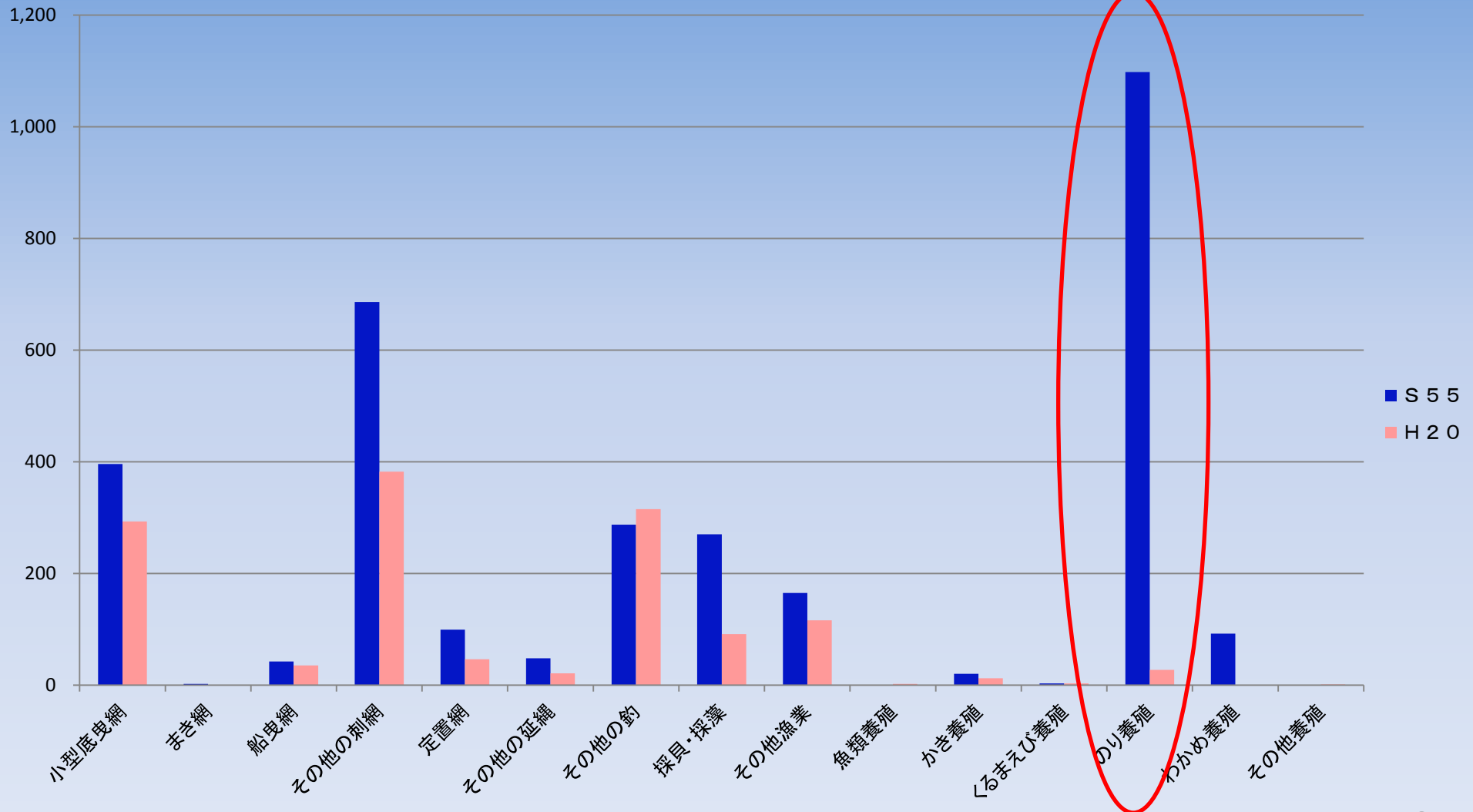
瀬戸内海海域

豊後水道海域

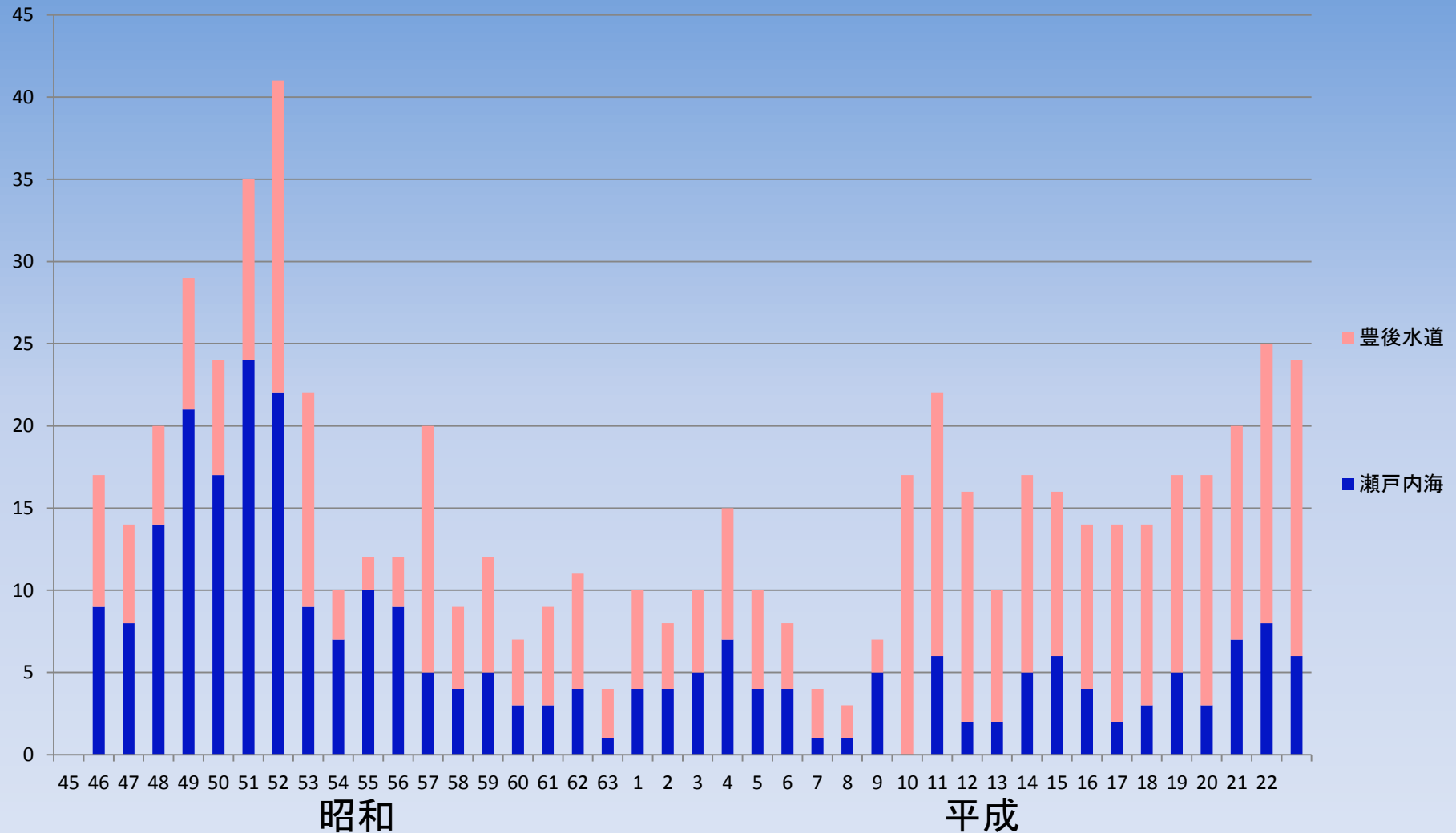
# 大分県の漁獲量の推移(トン)



# 大分県瀬戸内海海域における 主な漁業種類



# 大分県における赤潮発生件数



※近年、件数が増えているのは調査機器の性能向上により発見率が高くなったため。

## 第2章 漁業に携わって



# 地域の概況



# 小型定置網を行って

- 幼少期(昭和34年頃)  
多様性があり、無尽蔵と感じる位の漁獲量。
- 操業期(昭和51年～平成4年)
  - 着業時はそこそこの漁獲量はあるが、幼少期の面影なし。年々減少傾向となる。
  - 網の改良で漁獲向上を図るが焼け石に水。
  - 平成4年に廃業。
- 振り返って  
昭和60年前後の真鯛の大量発生や、タチウオの大漁はあったものの全般的に、急激な漁獲の減少。

# ノリ養殖を行って

- 幼少期(昭和30年代)
  - 本格的にノリ養殖が行われるようになる。
- 操業期(昭和51年～平成20年)
  - 着業時は元気な経営体数も多く、各地で研究会がたちあがり、品種改良や採苗の研究が行われる。が浮き流し漁場の衰退。
  - 徐々に栄養塩不足からか品質が低下し、平成20年で廃業。

# アカガイ養殖を行って

- 平成2年に試験養殖実施。
- 平成5年から軌道に乗る。当初128g
- 当分80gを堅持その後80g割れも
- H18年頃より1年目の夏越しが難しくなる
- H23年とりあえず廃業

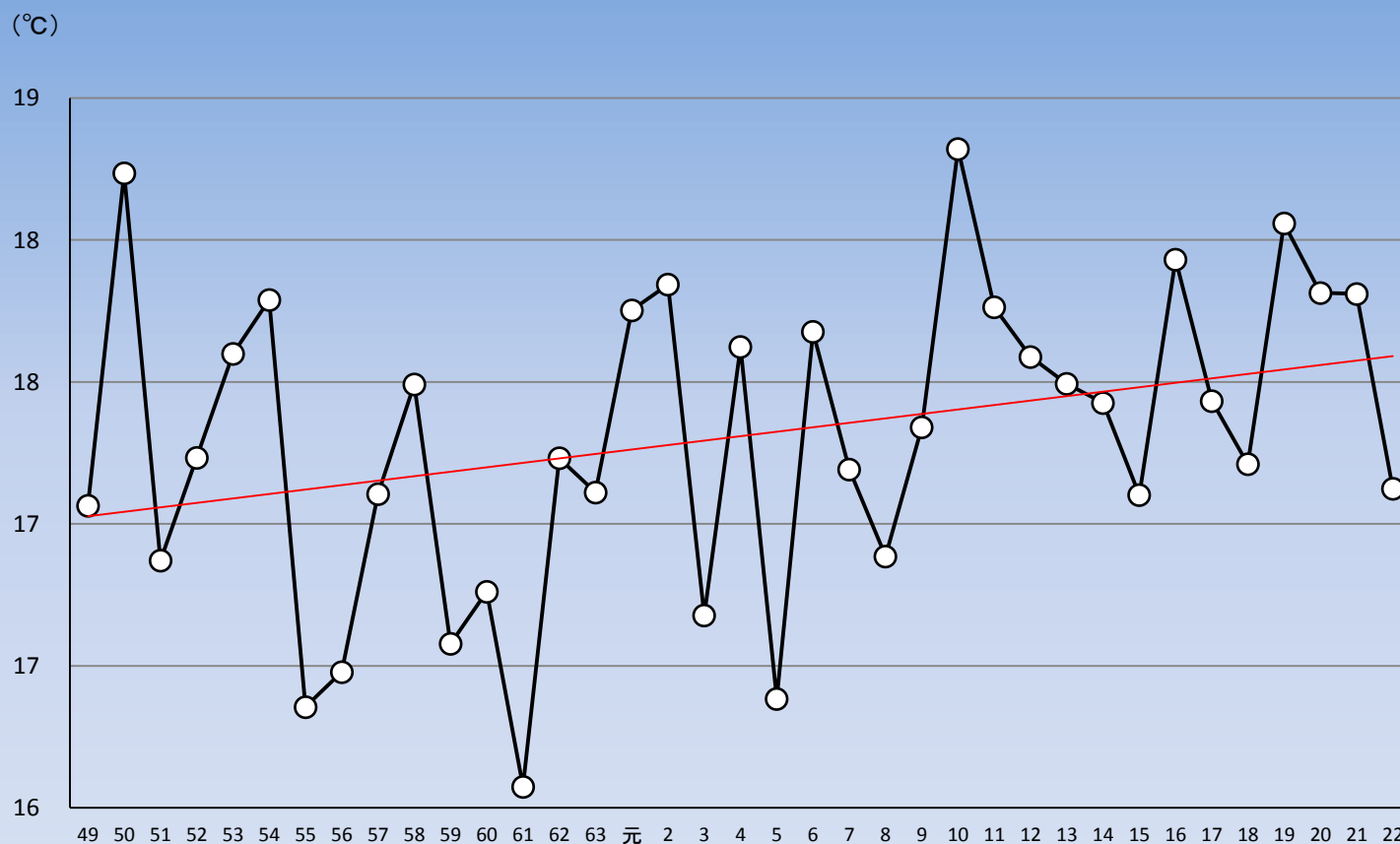
# カキ養殖を行って

- 〇157によるアカガイの出荷減を受け開始。
- 平成12年に麻痺性貝毒による出荷停止。
- H20年絶滅危惧種のイタボガキの養殖開始。
- H20年イワガキ養殖開始。

# 第3章 私の感じた環境変化

# 豊前海における水温の推移

(16調査点の5m層の年平均値)



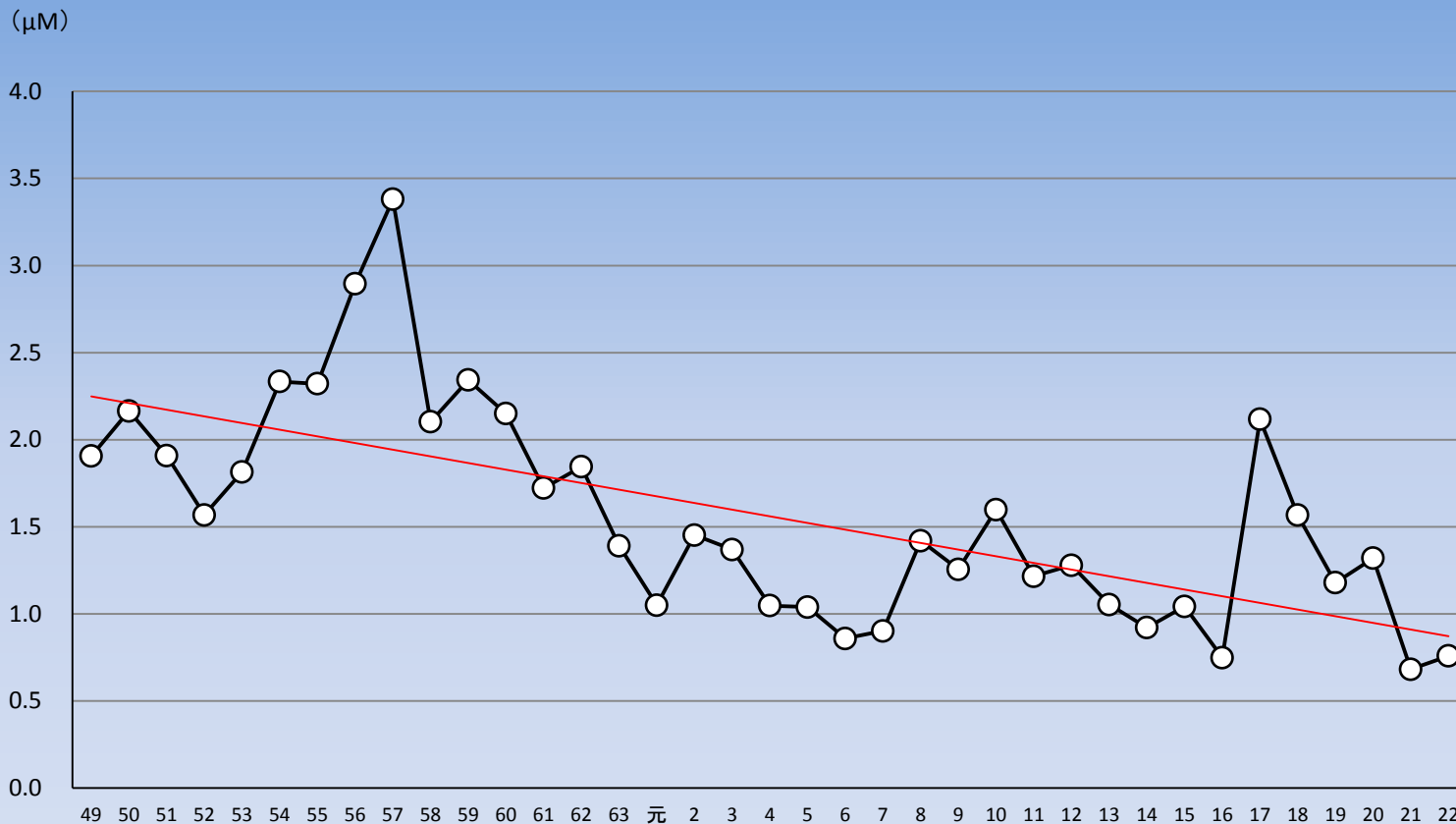
# 温暖化を受けて

- 豊後水道海域を中心に磯焼けが発生。
- 瀬戸内海海域ではナルトビエイなどによる貝類の食害。



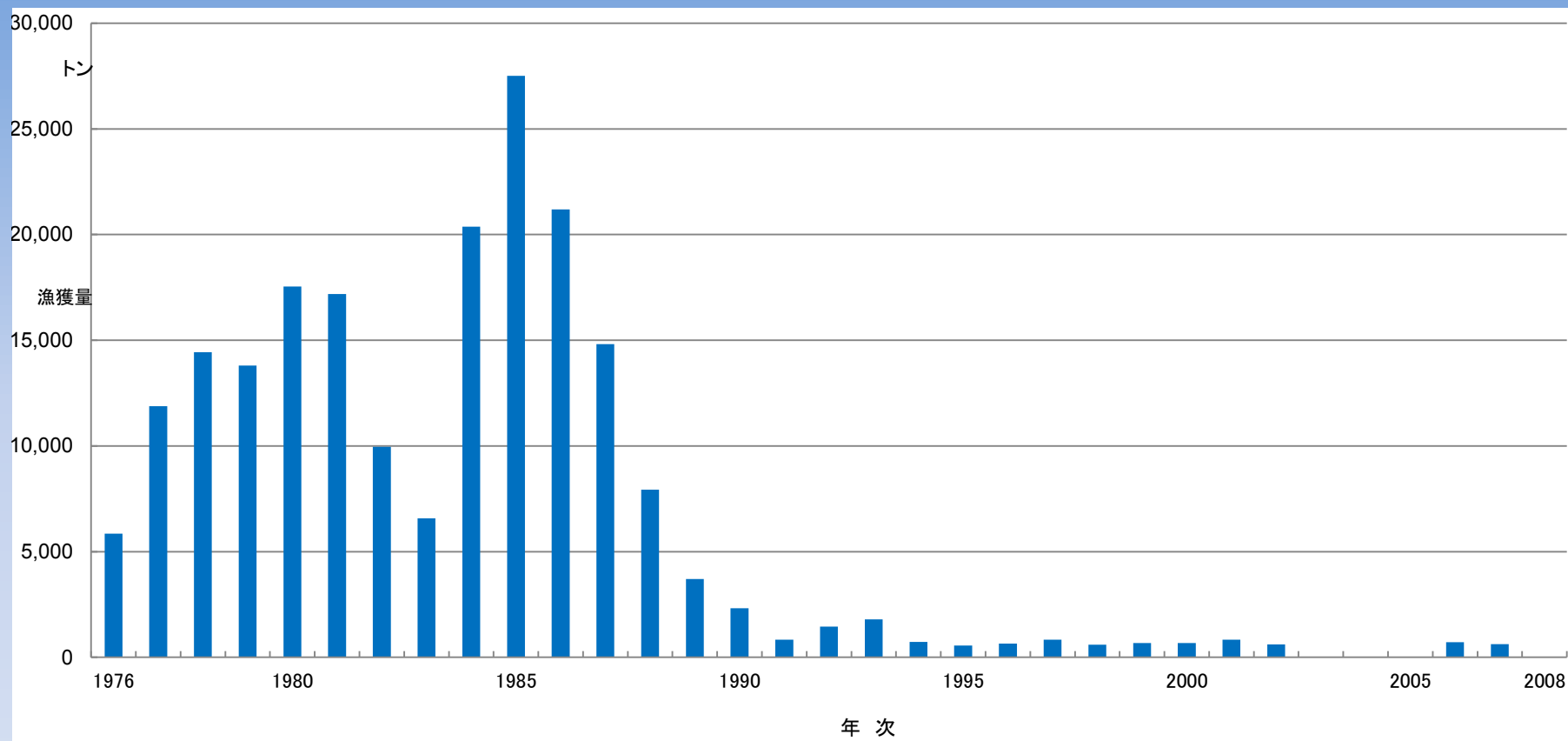
# 豊前海におけるDINの推移

(16調査点の5m層の年平均値)



(大分県浅海・内水面グループ浅海チームの資料を基に作成)

# 豊前海におけるアサリ漁獲量の推移



# 豊前海に流れこむ川のダム

水系	名称	着工年	竣工年
桂川水系	並石ダム	昭和44年	昭和60年
駅館川水系	深見ダム	昭和35年	昭和47年
	日出生ダム	昭和39年	昭和54年
	日指ダム	昭和39年	昭和54年
	香下ダム	昭和49年	平成7年
山国川水系	耶馬溪ダム	昭和45年	昭和59年
	平成大堰	昭和58年	平成2年

# 見られなくなった魚介類



バイ



キサゴ類



カガミガイ



オキシジミ



サクラガイ



ヒメシラトリガイ



コロダイ

# 最後に

- 「真の文明は 山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」田中正造